

本来の目的プラス、違うものを
得ていけるような場所にしたい。

ぐるぐる海友舎プロジェクト
なんかわ
南川智子さん



GoON!



陶芸家
若狭祐介さん

ETAJIMA GoON!

Vol.5

Kaiyousya

足を運べば運ぶほど 新しい発見がある場所。

Vol.5
江田島町・中央
ぐるぐる
プロジェクト
なんかわ
南川智子

来年には活動10年目を迎える。メンバーも設立当時の5人から増え、今では15人になった。「途中から参加しているメンバーもいるので、活動初期の事情などは知らない。だから、みんなで改めて活動を振り返ることで、これからの発展に繋げたいなと思っています」メンバーは職業も年齢層もバラバラ。市内外から個性豊かなメンバーが集い、思いを繋ぐ場を創り出している。「私が代表という立場でここまでやってきましたが、〇〇をするぞ！なんて意気込んだりはしません（笑）。「こんなことがしてみたい！」という意見が出れば、その都度みんなで話し合って活動をしています」

月に1回、第二日曜日を活動日として建物の掃除や手入れなどをを行い、海友舎の管理に努めている。掃除は誰でも参加でき、その場で海友舎に訪れた様々な人と交流できるのも魅力のひとつだ。掃除が終わつた後には必ずメンバーでのミーティングを実施。思いを口に出して、実現できるようにみんなで手伝いをしている。多くの人を巻き込んで海友舎を活用し、保存していくのがぐるぐる海友舎プロジェクトの面白いところでもあるのだ。「毎年予期せぬ出会いがあつて面白いんです。訪れてくれた人たちとの出会いの中で、活動の幅が広がっていくことが魅力ですし、私自身とても楽しく感じています」

訪れた人の対話を大切にし、「繋がる場所」を創り出す。関わってくれる多くの人の思いと共に、海友舎はコミュニティの場として再生し、新たな観光資源として、昔と変わらない場所から、今日も流れゆく江田島の時間を見守り続けている。

コロナ禍による活動自粛を経て 気づいた新たな魅力と可能性

地道な活動を続けて9年。市外から海友舎を訪れる人も増えた。しかし、江田島市内には「ぐるぐる海友舎プロジェクト」という団体も、海友舎という建物の名称すら知らない人も未だ多くいるとい

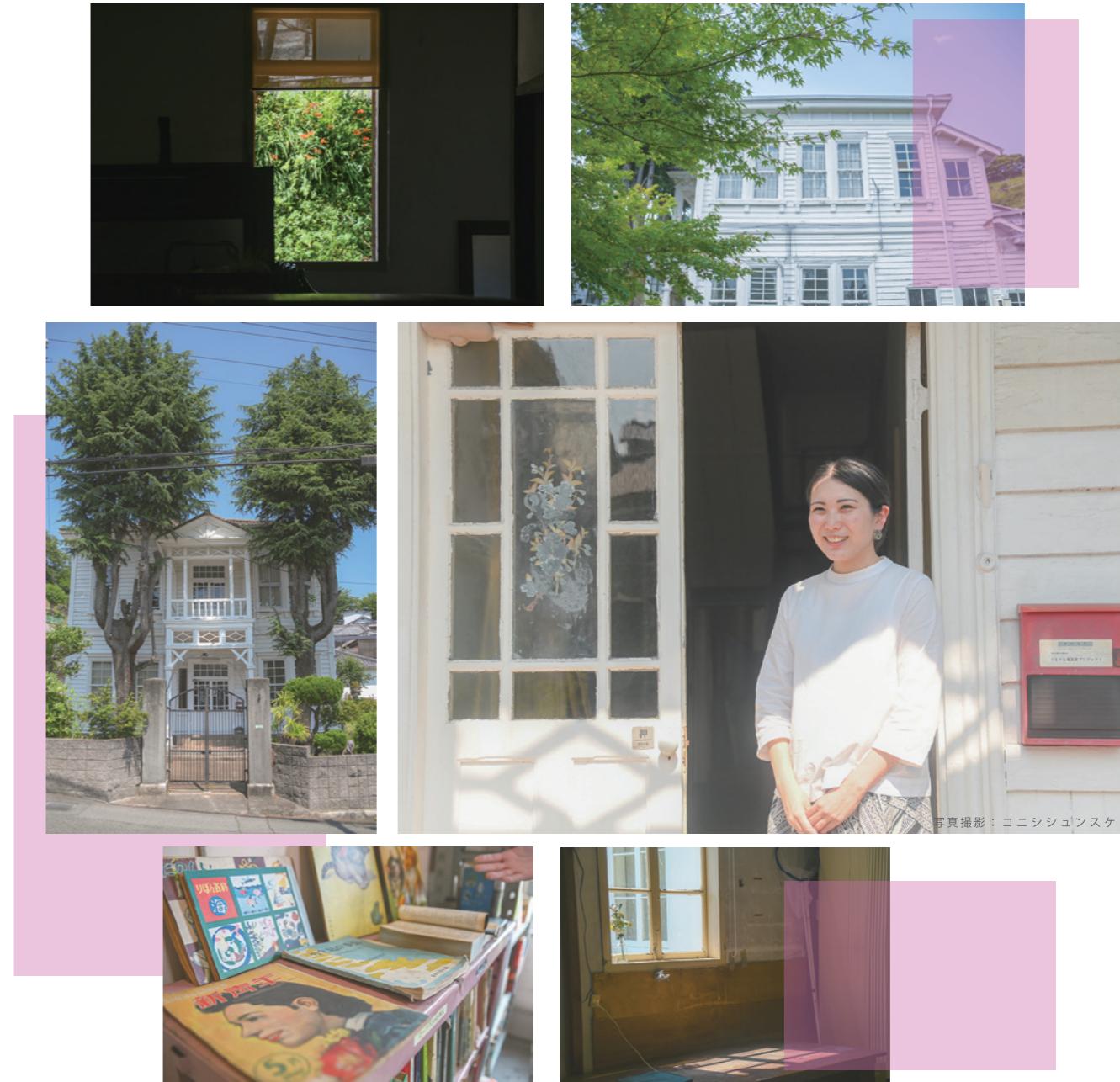


写真上：アカイブルームにはこれまでの活動を振り返ることのできる数々の資料が。
写真下：オリジナルグッズの販売も。グッズの売り上げは海友舎の補修・維持費として使用されます。

う。「この周辺に住んでいる方々の中にも、私たちのことを知らないという人もいらっしゃいます。だからこそ、地道に活動を続けるしかないんです」そんな中起きた、コロナウイルスの流行。やむを得ず、活動も一時中止となつた。

一方で、このコロナ禍をきっかけに、新たな動きも起つた。「地域行事が全て自粛・中止となつてしまい、少し時間に余裕ができる人が増えたのか、近所の方々が海友舎を覗きに来てくれるようになつたんです。これまでには、ご近所さんに挨拶に行つても『手伝いたいけど、手伝う時間が無い』といった方が多かつたんですが、時間ができたおかげで、お庭の手入れなどを手伝ってくれる人が増えました。コロナ禍で、ぐるぐる海友舎プロジェクトとして大きな活動はできなかつたけど、今までお会いでできなかつたご近所さん達と初めて繋がることができた。改めて考えると、私にとっても、海友舎にとつても素敵なお時間だったと思つていてます」

手伝ってくれる人が増えると、これまで手入れできていた花が綺麗に咲いた。自然と鳥が海友舎に訪れ、見たことの無い綺麗な蝶々も飛んできた。「今まで、建築や歴史好きな人が海友舎に来ることが多かったのですが、お花や草木が好きな人も来てくるようになつて、新しい広がり方ができました！景観や自然が好きという人が、噂を聞いて海友舎に来てくれたことに感動しました。9年目にし



写真撮影：コニシュンスケ

**個性豊かなメンバー達と
【繋がる場所】を創り出す**

代表の南川さんは広島県生まれ。祖父母が江田島市に住んでいた関係で、子どもの頃は夏休みに遊びに来たり、ミカン狩りなどを楽しむ場所として、とても良い思い出のある場所が江田島市だったという。再び江田島市に訪れるようになつた2012年、海友舎に魅了された南川さんは【自分たちで手入れをしながら残していく】という方法で、海友舎を後世に残すため『ぐるぐる海友舎プロジェクト』を創り続いているのが『ぐるぐる海友舎プロジェクト』だ。

2020年2月にはNPO法人化され、

江田島町中央。江田島町のシンボルともいえる第一術科学校から少し歩くと、江田島の歴史を見守り続ける「海友舎（かいやうしゃ）」がある。元々は旧海軍兵学校関係施設で、兵士たちの娛樂兼福利施設だった海友舎。空襲さえも免れた歴史的建造物を、解体の危機から救い、地域のコミュニティの場として再生。【繋がる場所】を創り続いているのが『ぐるぐる海友舎プロジェクト』だ。



みんなで手入れした素敵なお庭。梅や紅葉など、四季折々の草花が楽しめます。

『ぐるぐる海友舎プロジェクト』
最新ニュースや
お問い合わせについて
ホームページをご覧ください



江田島町中央。江田島町のシンボルともいえる第一術科学校から少し歩くと、江田島の歴史を見守り続ける「海友舎（かいやうしゃ）」がある。元々は旧海軍兵学校関係施設で、兵士たちの娛樂兼福利施設だった海友舎。空襲さえも免れた歴史的建造物を、解体の危機から救い、地域のコミュニティの場として再生。【繋がる場所】を創り続いているのが『ぐるぐる海友舎プロジェクト』だ。

2020年2月にはNPO法人化され、

江田島町中央。江田島町のシンボルともいえる第一術科学校から少し歩くと、江田島の歴史を見守り続ける「海友舎（かいやうしゃ）」がある。元々は旧海軍兵学校関係施設で、兵士たちの娛樂兼福利施設だった海友舎。空襲さえも免れた歴史的建造物を、解体の危機から救い、地域のコミュニティの場として再生。【繋がる場所】を創り続いているのが『ぐるぐる海友舎プロジェクト』だ。

2020年2月にはNPO法人化され、

江田島町中央。江田島町のシンボルともいえる第一術科学校から少し歩くと、江田島の歴史を見守り続ける「海友舎（かいやうしゃ）」がある。元々は旧海軍兵学校関係施設で、兵士たちの娛樂兼福利施設だった海友舎。空襲さえも免れた歴史的建造物を、解体の危機から救い、地域のコミュニティの場として再生。【繋がる場所】を創り続いているのが『ぐるぐる海友舎プロジェクト』だ。

2020年2月にはNPO法人化され、

江田島町中央。江田島町のシンボルともいえる第一術科学校から少し歩くと、江田島の歴史を見守り続ける「海友舎（かいやうしゃ）」がある。元々は旧海軍兵学校関係施設で、兵士たちの娛樂兼福利施設だった海友舎。空襲さえも免れた歴史的建造物を、解体の危機から救い、地域のコミュニティの場として再生。【繋がる場所】を創り続いているのが『ぐるぐる海友舎プロジェクト』だ。

2020年2月にはNPO法人化され、